

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	認知症高齢者見守り(派遣)事業	会計	介護保険	事業No.	233	施策順No.	35-042
		事業種別	政策・その他	予算科目	5-2-1-50-5		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり	課等名	介護高齢課				
施策	35 高齢者福祉の推進	事業期間	開始	12	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	認知症高齢者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		介護保険外の見守りサービスを必要とする認知症高齢者予想数		10	10	10	10	
	意図	認知症高齢者が安心して地域で暮らせるようになる。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	見守り事業利用者数の累計/対象者数×100 %	40	10	40	50	40	50	B
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	利用者数は横ばいであるが、介護保険サービスを補填するサービスとして必要な方には利用していただけている。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	介護保険で対応できない、家族不在時の認知症高齢者や独居の認知症高齢者の見守りや話し相手をする有償ヘルパーの利用料の一部を補助する。 補助 家族不在時の見守り:1時間につき1000円を 独居の見守り:介護保険同様の30分以上1時間未満 2,290円×0.9を補助		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	家族不在時の認知症高齢者や独居の認知症高齢者の見守りや話し相手をする有償ヘルパーの派遣を、訪問介護事業所に委託して行う。	1 利用者実数 2 利用延時間	1 4人 2 170.5時間
23年度実施計画	家族不在時の認知症高齢者や独居の認知症高齢者の見守りや話し相手をする有償ヘルパーの派遣を、訪問介護事業所に委託して行う。	1 利用者実数 2 利用延時間	1 10人 2 200時間

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	447	121	447	特定財源内訳、補足事項 地域支援事業交付金の任意事業 国40% 県20% 市20% 1号保険料20%
	起債	県支出金	223	61	223	
	その他					
	一般財源		449	121	449	
	計(A)		1,119	303	1,119	
	正規職員所要時間			35		
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)			125		
	トータルコスト A+B			428		

4 事業に対する市民や議会の意見

高齢者分科会では、認知症対策の強化が議論されている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	施策の成果指標又はムトス指標
	安心していきいき暮らせる	安心して暮らせる高齢者の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	介護保険で対応できない見守りサービスを提供することで、認知症高齢者とその家族を支援し、安心して在宅生活を維持することができた。
	後期に向けた課題	認知症高齢者とその家族が安心して在宅生活を維持できるように支援を継続していく。
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	対象範囲を拡大し、利用しやすいように改善した。
	後期に向けた課題	対象範囲の周知を図り利用促進を図る。
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	利用者の経済的負担の軽減を図るために削減は難しい。
	後期に向けた課題	利用者の経済的負担の軽減を図るために削減は難しい。
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	利用者には経費の一部を自己負担してもらっているが、無理のない負担額としている。
	後期に向けた課題	引き続き経費の一部を自己負担してもらう。
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	主体:認知症の介護に資する訪問介護の事業所に委託して実施してもらった。 行政:委託事業所及び担当ケアマネージャーと連携を取り、事業を推進してきた。
	後期に向けた課題	委託事業所と連携して事業を継続していく。
全体を通じて	4年間の振り返り	介護保険で対応できない見守りサービスを提供することで、認知症高齢者とその家族を支援し、在宅生活の維持を支援してきた。
	後期に向けた課題	必要な事業ではあるが利用者数が少ないため、ニーズの把握をし利用しやすいようにしていく。

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------